

1 中南型産直モデルの確立と産直間の連携強化による地産地消の推進 ～ 産地直売施設が抱える諸課題の解決を通じた認知度と販売額の向上 ～

【概要】

- 産直施設の認知度や販売額の向上を目指し、管内産直施設・市町村・農協等で構成する協議会での県外の先進産直施設研修、複数生産者から集荷した高冷地野菜を複数産直へ配送する共同集荷モデル実証及び産直施設が連携したPRに取り組んだ。

【背景・課題】

- 管内産直施設では、約7割が65歳以上で、運転が困難な生産者の増加等により、新たな集荷体制が必要となっている。
- 道の駅や大規模な産直施設は認知されているが、小規模な産直施設にあっては、近隣住民以外その所在等が認識されていない。

【普及指導活動の内容】

- 産地直売施設協議会の設置・運営により連携体制を強化した。
- 高冷地野菜の生産者7戸から集荷し3産直施設へ配送する共同集荷モデルを実証した。
- 産直施設が連携したPRとして、スタンプラリー、産直マップの配付、地域FM放送による産直レポート等を実施した。

【成果】

- 共同集荷モデル実証では、人気の高い高冷地野菜を午後の品薄時に陳列できたことや高冷地野菜がなかった産直施設では、陳列の幅が広がり、来店客には喜ばれた。
- スタンプラリーは、りんごこぎん柄の保冷バッグが評判で、期間終了を待たずに景品がなくなり終了となった。期間中の売上げが前年を上回り、認知度の向上が図られた。
- 毎週金曜日のコミュニティーFMによる産直レポートは、消費者から好評であった。

【対象者】

中南地域産地直売施設協議会
(30団体)



県外視察研修



高原野菜の販売状況



保冷式のエコバック



地域FMの産直レポート（生放送）

2 需要に応える「青天の霹靂」の生産と新品種「はれわたり」の普及拡大 ～「青天の霹靂」の全生産者出荷基準達成と、新品種の本格デビューに向けて～

【概要】

- 青森県産米のトップブランド「青天の霹靂」の良食味・高品質生産支援により、需要に見合った供給量の確保と全生産者のお荷基準達成を目指した。
- 新品種「はれわたり」の普及拡大に向けて、品種特性の把握と、生産者へ周知を図った。

【背景・課題】

- 「青天の霹靂」は、実需者や消費者から高い評価を得ており、また、安定した米価が支持され、令和4年産は過去最大の作付面積となった。新規作付者が多い中ブランド価値を維持するために、全生産者の高品質・安定生産を図る必要がある。
- 令和5年産の本格デビューを控える新品種「はれわたり」は、生産者への品種特性の周知と、県外生協との取引がある生産部会に対して品種切替えに向けた支援が必要である。

【普及指導活動の内容】

- 「はれわたり」の指導体制を整備するため、中南地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム（以下中南PT）に改称した。
- 中南PTでは、連絡会議の開催、各品種の生育観測ほの設置、生産情報の提供、現地講習会の開催により、関係機関や生産者と情報共有を図った。
- 令和3年産の「青天の霹靂」出荷基準未達成者に、「青天ナビ」を活用した作付ほ場の確認、適切な肥培管理や適期刈取りについて指導した。
- 生産部会に対して、「はれわたり」の現地検討会や講習会の開催、食味用サンプルの配付を通じて、品種特性や栽培技術の理解に努めた。

【成果】

- 「青天の霹靂」のお荷基準達成率は、県平均の97.7%を上回る98.6%と高い達成率となり、単収は昨年を0.1俵上回る8.7俵となった。
- 講習会等で「はれわたり」の良食味等の品種特性が理解され、5年産の管内の作付面積は700haを超える見込みとなった。
- ときわ良質米生産部会では、令和6年産に「はれわたり」への全面切替えが決まった。

【対象者】

中南管内「青天の霹靂」作付者（408経営体）、新品種「はれわたり」作付者（15名）、JA津軽みらいときわ良質米生産部会（213名）



第2回連絡会（6/28）



生産部会現地検討会（8/5）



刈取適期講習会（9/7）

3 中南地域の果樹経営に適した特産果樹の生産拡大

～シャインマスカット・ジュノハートの高品質果実生産の推進～

【概要】

- 関係機関・団体と連携して、ぶどうシャインマスカット及びおうとうジュノハートの基本的生産技術の習得等に向けた支援を行い、高品質果実の安定生産を図った。

【背景・課題】

- 近年、シャインマスカットの新規作付者が増加しているため、無核処理等の基本技術の普及が急務である。
- ジュノハートは県がブランド化を進めているため、県のブランド化推進協議会が設定した品質基準や出荷規格を周知徹底し、高品質大玉生産を推進する必要がある。

【普及指導活動の内容】

- シャインマスカットは講習会や巡回により基本技術の周知を図った。また、大玉で高糖度のシャインマスカット生産園での新梢の生育状況や管理方法、無核処理時期などについて調査し、その結果を情報交換会等を通じて情報提供した。
- ジュノハートは生育観測ほを設置して生育ステージや着果状況を確認するとともに、農協等と連携して目揃い会や個別指導で生産者に出荷を呼び掛けた。

【成果】

- シャインマスカットは、8月の大雨の影響と見られるべと病等の病害、裂果等の障害の発生が目立ったことにより、出荷量が減少した園地が見られたものの、出荷量は、前年の29.5トンから45トンに増加した。
- ジュノハートは雨よけ被覆後も裂果の発生が多かったことから、適期収穫と出荷規格の徹底を生産者に強く呼び掛けながら出荷を促したところ、7人の登録生産者が出荷規格を満たしたジュノハートを出荷した(出荷量:約64kg)。

【対象者】

弘果シャインマスカット作付者(95名)、
JAぶどう生産者協議会(中南地区88名)、
おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会登録生産者(18名)



シャインマスカットの房づくり指導



ジュノハート結実状況

4 多様な農業・地域活動にチャレンジする女性農業者の育成 ～地域活性化に向けた女性農業者の新たな取組への支援～

【概要】

- 地域の活性化を図るため、女性起業家等を対象にセミナーを開催したほか、「農のふれカフェ」実践者を対象に、個別指導や情報交換会を行った。また、女性起業家の地域共生社会の実現に向けた活動について支援した。

【背景・課題】

- 農産加工や消費者交流活動に取り組む女性起業家は、新商品開発や新たなサービスの提供等による起業活動の取組拡大が課題となっている。
- 女性起業家の高齢化に伴う後継者育成や事業継承、若手女性農業者の起業開始に向けた支援等により、起業活動に取り組む女性農業者を育成する必要がある。

【普及指導活動の内容】

- スキルアップや加工技術や事業の継承に向けたセミナーを開催したほか、新商品開発や起業化に向けて個別に支援をした。
- 「農のふれカフェ」実践者に対し、情報交換会の開催や個別巡回を行い、体験メニューの開発と実践に向けた支援を行った。
- 女性起業家による地域の「食」を生かした地域課題解決の取組に対して支援した。

【成果】

- 女性起業家や「農のふれカフェ」実践者が新たに3商品・2サービスの提供を開始した。
- セミナー等の開催を通して地域活動や起業に関心のある若手女性農業者の掘り起こしができた。
- 「食」に着目した地域共生社会につながる活動として、「農のふれカフェ」実践者1名が郷土料理教室を開催して食文化の伝承を始めたほか、福祉事業者と連携した商品開発や地域住民等との交流を実施した。

【対象者】

女性起業家（49名・組織）
起業活動に関心のある女性農業者（20名）
「農のふれカフェ」実践者（11名）



女性起業セミナーの様子



若手農村女性を対象とした
スキルアップセミナーを開催



郷土料理の伝承活動